

メディアに関する児童の自己指導能力の獲得を支える生徒指導の充実 －生徒指導の実践上の視点を重視した学級経営と授業実践を通して－

前橋市立桃川小学校 加藤 織乃

I 主題設定の理由

GIGAスクール構想において、一昨年度より、本市の全児童に学習者用端末が貸与された。また、児童は日常的に家庭でも様々なメディア（テレビ・スマートフォン・ゲーム機・パソコン・タブレット等の端末や機器及びSNSなど、以下メディア）に触れるようになってきている。学習者用端末においては、教育委員会の策定した推進計画に基づいて学校ごとにルールが設定されており、勤務校においても、児童は児童会で決めたルールを守って使用している。しかし、家庭でのメディアの利用については、まだ児童が十分に適切な判断能力を身に付けているとは言えない状況であり、実際に、長時間の利用により、生活リズムを崩したり、SNS等でのやり取りが原因のトラブルが発生したりしている。しかし、これだけメディアが普及してきている中で、メディアは危険なものだからなるべく使わないようにするという「抑制的な情報モラル教育」では、児童のICTスキルや情報モラルは育たない。これからは、児童が「ICTのよりよい使い手となるための教育」を推進し、児童が自律的にメディアを活用していくことが求められている。

メディアの利用においては、自分をよりよくしたいという向上心を高め、心身の健康に合った生活リズムを考え、メディアとの関わりを見直し、生活を改善していこうとする力（以下「メディアに関する自己指導能力」）を児童が獲得することが必要だと考えた。そのためには、「生徒指導提要（改訂版）」に示されている、自己指導能力の獲得を支える生徒指導の実践上の視点、「①自己存在感の感受」「②共感的な人間関係の育成」「③自己決定の場の提供」「④安全安心な風土の醸成」を意識した指導が大切である。そこで、自己存在感が感じられ、共感的な人間関係が育成される学級経営は、児童の自分をよりよくしたいという向上心を高めるための支援につながり、メディアに関する授業において意図的に自己決定の場を提供することが、児童の自分とメディアとの関わりを見直し、自身で生活を改善していこうとする力を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

メディアに関する児童の自己指導能力の獲得を目指すため、生徒指導の実践上の視点（①～④）を重視した学級経営と授業実践が有効であることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

小学校生徒指導において、以下の二つの手立てを講じることで、メディアに関する児童の自己指導能力の獲得を支える生徒指導の充実を図ることができるであろう。

【手立て1】自己存在感が感じられ、共感的な人間関係が育成される学級経営

【手立て2】年間を通じメディアに関して児童に意図的に自己決定の場を提供する
授業実践

IV 実践内容

本研究は、勤務校の第6学年26名を対象に実践を行った。

1 【手立て1】自己存在感が感じられ、共感的な人間関係が育成される学級経営

(1) 実践の概要

日常的な取組として、毎日児童と日記を通してやり取りを行い、一人一人と関わりを深められるようにした。また、2学期には児童と二者面談を行い、よさを伝えたり、悩みを聞いたりして、より一層、児童との関わりが深められるように努めた。

また、特技や個性を生かして児童が自発的・自治的に行う活動（以下「会社活動」）の場を保障した。例えば、イラスト会社を立ち上げた児童には、描いたイラストを教室内に掲示できるようにスペースを用意したところ、作品を見た児童から称賛を受け、上手に描くためのアドバイスを求められたりする姿が見られた。また、魚会社については、教室内に水槽を用意し魚を飼育できるようにしたところ、児童が自然と水槽の周りに集まり、飼育方法についての相談や雑談が交わされるようになった。

その他、「特技披露大会」やレクリエーション等を児童が企画・運営する際に企画書の練り上げや時間の保障などの支援を行った。特技披露大会は、7月と12月の2回、児童によって企画された。特に2回目は、特技を披露するだけでなく、その特技の体験教室も合わせて開かれ、児童が互いの特技について教え合う中で、交流を深める姿が見られた。

(2) 結果と考察

今年度、児童間のSNSにまつわるトラブルの相談は1件もなかった。学校生活において、共感的な人間関係づくりに努めたことが、学校外での児童の関わりにもよい影響を与えたのではないかと考える。

7月と11月にクラスに関するアンケートを実施した。「とても好き」「好き」と肯定的に捉える児童は7・11月とも88%で

あり、年間を通じてクラスのことを好意的に見ている児童が多かった（図1・表1）。

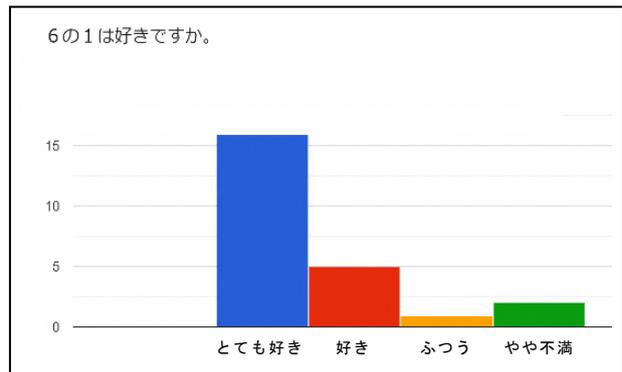


図1 6年1組に関するアンケート（11月）

表1 6年1組のアンケートより 「6年1組の印象」 7月と11月

	7月	11月
A児	活発なクラス	明るくて元気が良くて誰とでも接することができるクラス
B児	積極的な楽しいクラス	毎日必ず笑いが起こるとても楽しいクラス
C児	いつも楽しくて、笑顔でいられるクラス	個性がたくさんあって明るくてとてもいいクラス

さらに、行事を重ねるごとに仲間との関わりが増え、児童同士が互いに協力したり教え合ったりする場面が増えた。また、7月のアンケートで否定的な回答をした児童全員にも変容が見られた。D児は、1学期、「友達ができない、学校が苦手」といった悩みを抱え、担任に相談することもあった。しかし、2学期半ばからD児に変化が見られた。イラスト会社の活動に参加したことで、イラストが得意なD児の周りに他の児童が集まり、ほめられてうれしそうにする様子が見られるようになった。やがて、学級が盛り上がっていると

きに、D児も一緒に笑うようになった。2学期末の国語の作文では、「クラスの周りの人が何事にも楽しそうに取り組んでいるのを見て、うらやましいと同時に、これが人生を楽しむということなのだと思った」と書いており、D児が学級の仲間から刺激を受け、自分を変えようとする向上心が芽生えてきている様子がうかがえた。また、他の児童の日記からも、学級の共感的な雰囲気から安心感を覚え、自分を向上させようとしている様子がうかがえた（表2）。

これらのことから、手立て1を通じて、児童間のコミュニケーションが増えたことにより共感的な人間関係が醸成され、個性を発揮し友達から認めもらう経験を重ねたことで、自己存在感が高まり、児童の自分をよりよくしたいという向上心が芽生えたと考えられる。

表2 2学期末の児童のコメント（抜粋）

このクラスは笑顔のたくさんあるよいクラスだと改めて思いました。みんなとても優しくておもしろい。先生もとてもおもしろい方々で、学校に行くのが少し楽になりました。…（中略）みんなが簡単に話しかけ、何かを頼ってくれる。そんな自分をつくり、自分の気持ちを軽くしてくれた6の1のみんなにお礼がしたいです。

2【手立て2】年間を通じメディアに関して児童に意図的に自己決定の場を提供する授業実践

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総合「メディアをかしこく上手に使う」										
				メディア宣言実施期間							
					道徳「カスミと携帯電話」						
			学活「メディアチェック」		学活「メディアチェック」					学活「メディアチェック」	
			学活「私のメディア宣言」								
							学活「私の新メディア宣言」				

図2 今年度実践したメディアに関する授業実践の内容と実施時期

(1) 実践の概要

教師がメディアの危険性を訴え、抑制的に指導するのではなく、メディアについて自分で情報を集めたり、実体験を基に自身のメディアとの関わりを見つめ直したりする中で、メディアとのよりよい関わり方を児童自身が考え、生活を改善しようという実践意欲を高められるようにしたいと考えた。

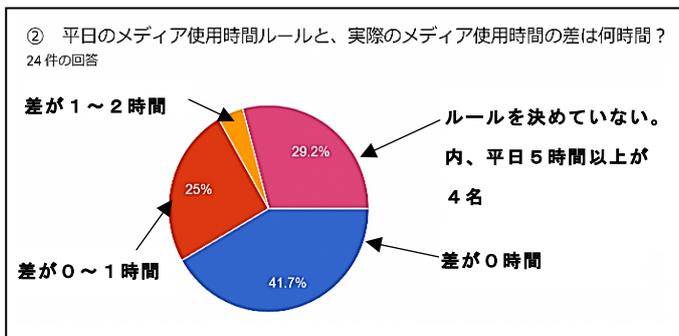


図3 メディアに関するアンケート（7月実施）

そこで、年間を通じ、繰り返し自分とメディアとの関わりについて考える授業実践を行った。たとえ児童が失敗をしても教師は否定せず、それを生かして改善策を考え自己決定していくように声掛けをした。7月の実態調査から家庭でメディアの使用時間に関するルールが決められていない児童に長時間（平日5時間以上）使用している様子が見られた（図3）。そこで、保護者との連携を図るためにも、児童が制作したスライドやメディア宣言を保護者に見てもらえる機会を設けたり、教育相談の際に、児童のメディアの利用の仕方について話題にしたりした。そうすることで、家庭でもメディアとの関わり方について話し合ったり、見守ったりしてもらおうようにした。

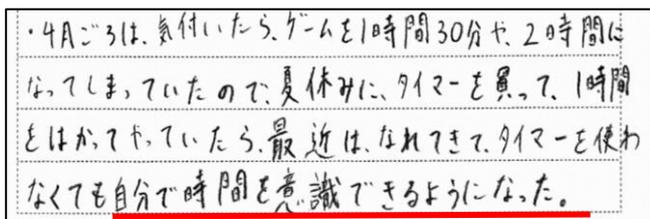
(2) 結果と考察

多くの児童が、自分の決めたメディアとの関わり方に関するルールを守り、さらによりよくするための改善方法を考え実践していた(図4)。思うようにいかないことがあっても、くじけることなく自分の取組を見つめ直し、改善策を考えて実践していた。

前述の6年1組のアンケートで、「普通・やや不満」と答えた3名(D~F

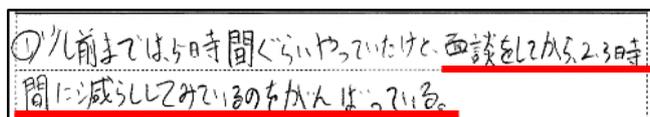
児)の内、D児とE児はメディアを長時間使用していたが、11月の時点で2名とも、メディアの使用時間を減らしていた。D児は、本人の意思で使用時間を減らしていた。E児は「メディアばかり観てしまうのを防ぎたいから」と保護者に頼み、習い事を始めた。F児は、担任との二者面談後、メディアの時間を減らしたと11月の振り返りに書いていた(図5)。G児は、1学期に「平日に6時間ゲームをしている」と周囲に話すなど、生活リズムが乱れがちな児童であった。しかし、9月の道徳「カスミと携帯電話」の授業の際に「自分でゲーム時間を調整し生活リズムを直している」と発表した。また、自分から保護者に頼み、ゲームの時間に制限をかけてもらうことで、生活リズムが改善された。その結果、G児は、2学期に入って、授業中の挙手が増えたり、修学旅行実行委員に立候補したりと、学校で活躍する場面が増え、生き生きと学校生活を送るようになった。2学期末には学級に居心地のよさを感じている様子が見られた(図6)。

このことから、生活を振り返り、改善策について自己決定して実行する中で、児童は、継続的に自分の生活をよりよくしようとしていたと言える。



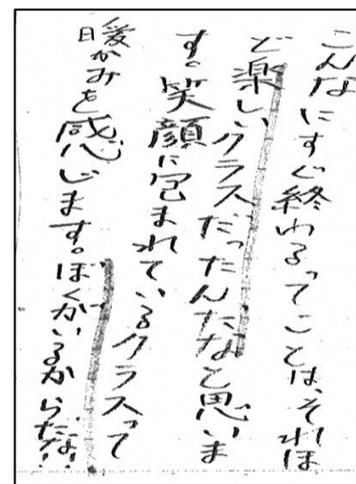
・4Aごろは、気付いたら、ゲームを1時間30分や、2時間になってしまっていたので、夏休みに、タイマーを買って、1時間をはかっていたら、最近ではなれてきて、タイマーを使わなくても自分で時間を意識できるようになった。

図4 児童のメディアに関する振り返り



①9月までは5時間くらいやってたけど、面談をしてから2.3時間間に減らしおめているのが大人になっている。

図5 F児のメディアに関する振り返り(11月)



こんばんは、すい終わってことは、それは、楽しい、クラスだったな、と思います。笑顔に宮まわっているクラスで、暖かみを感じます。ほかに、からた、

図6 G児との交換日記より

V 研究のまとめ

1 研究の成果

生徒指導の実践上の視点を意識した学級経営に努めた結果、児童は自己存在感を感じるようになり、向上心が芽生え高まっていた。

メディアとの関わりについて継続的に振り返り、自己決定する場を授業で提供したことで、児童自ら生活を見直し改善する力が身に付いてきた。

2 今後の課題

今後も、教師と児童の関係を良好にしていくのはもちろんのこと、保護者とも十分に連携して児童の成長を支援する必要性を強く感じた。

効果的で持続可能なカリキュラムにするために、学校行事や教科間の関連、児童の発達段階を考慮して、メディアに関する授業を年間指導計画に位置付けることが必要である。

【資料1】学級経営の充実でポイントとしたこと

ありのままでいられる受容的・共感的な雰囲気づくり	コミュニケーション豊かな学級づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の個性が発揮される会社活動の場の提供 ・特技や長所を生かせる場の提供 (特技披露大会など) ・一人に一役、達成感や有用感を味わえる当番活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童間交換日記・二者面談の実施 ・話し合いで学び合う場の設定 ・児童による学級レクの場の提供

(会社活動の様子)

<p>魚会社</p> <p>教室に水槽を設置。自分たちで好きな魚を飼う。休み時間になると自然と児童が集まり、飼育方法を教え合ったり、雑談をしたりする場となっていた。</p>	<p>イラスト会社</p> <p>教室の廊下に作品を掲示。描いてほしいイラストを募集した。描いたイラストをプレゼントする企画では、帰りの会でじゃんけんによる争奪戦が行われるほど盛況であった。</p>
<p>○その他、遊び会社、ボランティア会社、折り紙会社、あいさつ会社等が発足した。会社はいくつ立ち上げてよいこととし、また、会社に入らなくてもよいこととした。</p>	

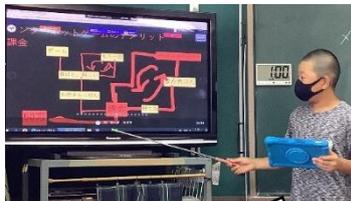
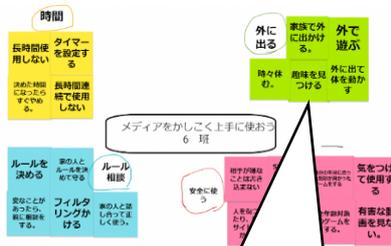
(特技披露大会の様子)

<p>○特技披露大会は学級活動の時間に行われた。1・2学期末のお楽しみ会で、披露したい人が披露した。7月は教室、12月は校庭で行われた。12月には、披露するだけに留まらず、特技の体験教室も行われた。 (披露された特技の例) イラスト・そろばん・ピアノ・トランペット・折り紙・野球・サッカー・レスリング・剣道・一発芸・けん玉など</p>	
---	---

【資料2】メディアに関する授業実践の内容

<p>5～7月 総合「メディアをかしこく上手に使う」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入で、メディアに関する印象を出し合い、分類し、整理した。 ・ゲストティーチャー（青少年支援センター）による出前授業で、メディアのよい面と危険性について講義を受けた。 ・自分がよく使うメディアの特性を理解した上で、上手に活用する方法について、調べたり考えたりしたことを発表した（メディア調べ）。 ・発表を聞き合った後、よりよいメディアとの関わり方についてグループで話し合った。 	
<p>7月 学活「メディアチェック」</p> <p>自身のメディアとの関わり方について振り返った。</p>	<p>7月 学活「私のメディア宣言」</p> <p>自分とメディアの関わり方について振り返ったことを基に、生活の改善策について自己決定をした。</p>
<p>7・8月 夏季休業期間 メディア宣言実践期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア宣言したことを、各自家庭で実践した。 ・児童が1学期に制作したメディア調べのスライドを保護者にも見ていただいた。 ・学級だよりで、メディアとの関わり方、家庭のルールの見直しをお願いした。 	
<p>9月 学活「メディアチェック」</p> <p>自身のメディアとの関わり方について振り返った。</p>	<p>9月 道徳「カスミと携帯電話」節度、節制</p> <p>自分とメディアの関わり方について振り返ったことを基に、生活の改善策について自己決定をした。</p>
<p>11月 学活「私の新メディア宣言」</p> <p>実践してきた自分の宣言を振り返る機会を設けた。振り返りから、今の自分に必要なことを考え、自己決定したことを宣言にした。</p>	<p>2月 学活「メディアチェック」</p> <p>自分のメディア宣言の達成度を確認し、更なる向上を目指し自己決定したことを実践していった。</p>

【資料3】総合「メディアをかしこく上手に使う」学習の流れ

<p>5月 メディア調べの導入</p>  <p>メディアは、便利で使いやすく、楽しいものです。でも、危険なこともあります。やり過ぎると体調を崩す点もマイナスだと思いました。</p>	<p>7月 メディア調べの発表会</p>  <p>僕はゲームが好きなのですが、中毒にはなりたくないので、ゲーム中毒になってしまう人の心理について調べました。</p>	<p>7月 発表を聞いて気付いたことをグループで共有</p>  <p>外で遊ぶなど、メディア以外の楽しさを知ること、体と心の健康に良いと思いました。</p>
---	---	--

【資料4】学活「私のメディア宣言」「私の新メディア宣言」

<p>わたしのメディア宣言 7月</p> <p>わたしたちはメディアをかしこく上手に使用するために必ず以下の事を守ります。</p> <p>使う時間を家の人と話し合っ それを必ず守る。 視力が低下しないように、 目から離して使う。</p> <p>2022年 7月19日 6年1組</p>	<p>わたしの新メディア宣言 11月</p> <p>わたしたちはメディアをかしこく上手に使用するために必ず以下の事を守ります。</p> <p>ゲーム、YouTubeは絶対一時間で守る。 なるべく同じ時間に寝る。(9時) 寝る一時間前からはメディアを使わない。</p> <p>7月当初よりも、健康な生活を送るために、 自分が努力したい点が具体的にになっている。</p>
<p>わたしのメディア宣言 7月</p> <p>わたしたちはメディアをかしこく上手に使用するために必ず以下の事を守ります。</p> <p>使う時間を1時間にする。 家の人が見えるところ（リビング）で使う。 寝る時間の1時間前からはできるだけ メディアを使わない。</p> <p>2022年 7月19日 6年1組</p>	<p>わたしの新メディア宣言 11月</p> <p>わたしたちはメディアをかしこく上手に使用するために必ず以下の事を守ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の部屋ではやらない 今出来てる事(使う時間と寝る時間の1時間前からはなるべく使わない)もちゃんとやる <p>7月と比べて、課題を明確に捉えて、これから 努力すべきことを考えることができている。</p>

〈参考文献〉

群馬県教育委員会（2019）.たくましく生きる力をはぐくむ はばたく群馬の指導プランⅡ
 群馬県教育研究所連盟（2001）.改訂新版実践的研究のすすめ方 東洋館出版社
 坂本旬 芳賀高洋 豊福晋平 今度珠美 林一真（2020）.デジタル・シティズンシップ・
 コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び 大月書店
 文部科学省（2010）.生徒指導提要 教育図書
 文部科学省（2022）.生徒指導提要（改訂版）